下野市立薬師寺小学校

１　学校課題

対話活動を重視した、学びが深まる授業の創造

～主体的・対話的で深い学びの実現を目指して～

２　研究計画

（１）研究の方針

①　対話を重視した学習活動を軸に、児童自身が能動的に学びを追求できる授業づくり

・主体的・対話的で深い学びの実現のための授業の検討をする。
・児童自身がプロセス（学びの過程）を実感できる授業展開をする。
・「ねらい」の達成のための効果的な対話活動とは何かを追究する。
・必要感のある「ねらい」の適切な提示と振り返りの時間の確保をする。

②　教師自身が専門家であることを自覚した授業力の向上

・教師が自分の授業を開き、全ての教師が研究を共有する。(教師自身の能動的な学び)
・授業の巧拙や発問の技術や教材の検討でなく、その授業における児童の変容（事実）に基づき、どこで子供が学び、どこで学びが閉ざされたかを中心に話し合うことで成果と課題を追究する。
・各個人の研究テーマを設定し、個人研究を進める。

③　小中一貫教育を意識した系統的な指導と実践

・小学校と中学校の密な連携を意識した研究をし、系統性ある指導をする。
・対話活動を通した外化によって思考の見取り方も研究の対象としたい。
・「知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等)」の育成
・児童の思考の見取りの検討。

３　研究内容

（１）研究の方法

①　個人研究を進める。

年間を通じて１人１研究を実践する。テーマは自由として、個々の教員が教育のプロとして自分の資質を高め、教育の専門性を高める目的で自由に設定し、年間を通して追究する。

②　研究授業の質を高める。

原則として研究授業公開は、１人１回実施する。児童の主体的・対話的で深い学びの実現を前提に研究をし、対話活動における効果的な発問を追究した授業実践を行う。

③　授業検討会を充実させる。

授業検討会はＳ＆Ｕコラボ事業を活用し、外部指導者(宇都宮大学教授)の指導を受け学びの質を高める。研究授業においては、授業者から指定のあった児童を重点的に観察し、検討会で児童の事実と変容を基にして、少人数での話合いを取り入れ、教職５年未満の先生が活発に発言できる雰囲気作りを心掛ける。検討会の内容をより充実させるため、授業に対して視点を絞った検討を行う。

（２）研究の実際

①　実践研究授業

教員は１人年間１回授業を公開することを基本に研究授業を実践し、Ｓ＆Ｕコラボ事業として宇都宮大学の教授、市教育委員会指導主事に直接指導を受けることの他、宇都宮大学教職大学院生や市内教職員など、広く外部に授業を開くことで本校全体の学びを深める。

②　実践内容

日　時	形　態	授業者	教科	授業内容	学年
4/12(水)	校内研修	学校課題研修　学校課題の説明			研究主任
5/10(水)	校内研修	学校課題研修　本年度の提案及び重点に関する研修			研究主任
6/5(月)	要請訪問	北城　篤史	算数	「分数のかけ算」 提案授業、検討会、本年度の重点	６年
6/19(月)	Ｓ＆Ｕ事業	授業参観 講話「学校課題実現のための対話活動の具体例」			研究主任
7/18(火)	校内研修 要請訪問	竹内　清恵 宮本　元与	算数	「あまりのあるわり算」	３年
7/31(月)	校内研修	個人テーマ研究　中間発表			研究主任
9/27(水)	校内研修	事前検討会			研究主任
9/28(木)	初任研	篠原　魁	算数	「平均」	５年
10/4(水)	校内研修	安生　知世	学活	「人の気持ちを考えた言葉遣い」	６年
10/18(水)	Ｓ＆Ｕ事業	吉川　葵	算数	「たしざん」	１年
10/25(水)	道徳研修	小野瀬 亜矢子	道徳	「ヒキガエルとロバ（生命尊重)」	３組
10/27(金)	学力向上	上條　愛里	算数	「面積」	４年
11/8(水)	Ｓ＆Ｕ事業	瀬端　愛美	算数	「かけ算」	２年
1/10(水)	校内研修	事前検討会			研究主任
1/18(木)	学力向上	中田　潤子	算数	「ひきざん」	１年
		芋川　晴恵	算数	「三角形と四角形の面積」	５年
2/7(水)	校内研修	研究の振り返り　研究の反省　次年度の計画案			研究主任

４　本年度の成果と課題

（１）研究の成果

①　対話活動を重視したことで、教師の発問に対して児童が能動的に学びに向かう姿が見られた。普段の授業でも、対話活動の機会を教員自身が意識して設定したことで、児童自身が間違いに気付き、児童同士で課題を解決できる場面が随所に見られた。「分かった」ことを実感できた児童が多く、深い学びの実現に近付いたと考えられる。

②　「教師の専門家としての意識の向上」では、毎回、成果と課題を浮き彫りにする取組が見られた。教員同士が声を掛け合い自主的な勉強会が開かれ児童のより深い学びの実現のための授業改善が図られた。事前検討会では、本時のねらいを明確にし、その達成のためにはどんな授業を展開し、どんな発問を組み立てるかを授業者だけでなく、参加者全員が当事者意識を持って話し合うことができた。また、Ｓ＆Ｕコラボ事業による大学の教授からのご指導は、常に核心に迫った的確なアドバイスがあり、我々を元気にしてくれ、とてもありがたかった。

（２）研究の課題

①　単に対話活動をすれば良いわけではなく、目的が実現するための対話活動になるような、「より効果の高い発問とは何か」という点について事前検討がもっと必要だった。教師から児童への発問、児童同士での問いなど、本時のねらいの達成のために必要最低限な発問を吟味すれば、より深い学びが実現され、学力の向上につながると考える。

②　対話活動を重視した授業の創造は、普段の授業の質を高めるものとなり、同時に教師の同僚性の高まりをもたらした。しかし、今年度、短期間に多くの校内研修を詰め込んでしまい、余裕がない中での授業検討であった。全教員がゆとりをもって児童や課題と向き合うことで、より一丸となって課題を追究する授業検討会が実現でき、更に研究が深まると考える。